

子見守る心曲に

佐賀市教委、まなざし運動後押し

「子どもへのまなざし運動」って知ってますか? 「すべての大人が子どもに関心を持つ」と、佐賀市が08年4月から始めた運動ですが、市民の認知度はいま一つ。そこで市は「耳からの広報活動」を期待して、運動のテーマソング「まなざしアーチ」を作成し、作詞は市教委の職員が担当しました。子どもを見守る大人たちの姿を描いた内容は、庁内では「情景が思い浮かぶ」とまざまざの評判です。

(白石昌幸)

職員作詞CD、小中校に配布へ

「まなざし運動を知らない市民が多い。テーマソングをつくってはどうか」

Rに懸命。だが、同市のアンケートでは、市民の認知度は3割にとどまった。

きっかけは、昨年5月の教育委員会、まなざし運動の周知方法について教育委員から提案があったこと。市が4月から関連条例を施行して鳴り物入りで始めた運動で、バスの車体広告を使ったり、市教委職員らが運動のロゴ入りシヤツを職務中に着たりするなどP

教育委員の提案を受けた市教委幹部は7月、市教委でメールマガジンの記事を担当している教育総務課の野村恵見さん(34)に作詞を頼んだ。「テーマソングを外注する予算が無い」ことも起用の一因だったが、野村さんは同僚の間でも「文才がある」と一目置かれて



「まなざしアーチ」の作詞を手がけた佐賀市教委の野村恵見さん＝佐賀市教委

安心の通学 思い込め

いた。
上司の注文は「単純だけど耳に残る親しみやすい歌」。即答で引き受けた野村さんだが、詞の構想が浮かばない。

翌日の昼休み。同僚の息子が、登下校中の子どもを襲うという都市伝説の「口裂け女」を怖がっているとき、「大人のまなざし」が、家の玄関から校門まで、卒業式に手をつくるアーチのようにつながれば、子どもは安心して通学できるかも」とヒントを得た。

♪行ってきましたと駆け出すきみの背中はどうに小さく遠く ぼくのまなざしの届かない曲がり角の先へ(中略) そうだ まなざしアーチをつくらうよ 手と手をむすんでとなりの人と 校門へつづく道すじをすまなく埋めて

歌の1番に込めた「朝の登校風景」の歌詞が出来ると、3番まで一日で書き上げ、佐賀を拠点に活動するシンガー・ソングライター 弓削田健介さんに作曲を依頼。このほど、CD作成にこぎ着けた。

野村さんは「殺伐とした世の中ですが、この歌を聞いてほっこりとした気持ちになって、すべての大人が子どもに温かいまなざしを向けてほしい」と話している。

CDは400枚を作成。今月中旬に市内の小中学校に配布して登下校のBGMにしたり、市のイベントなどで流す。市立図書館や公民館などでも貸し出し、ラジオやTV、商業施設などに放送依頼の売り込みも検討するという。問い合わせは同市教委(0952・4073554)。